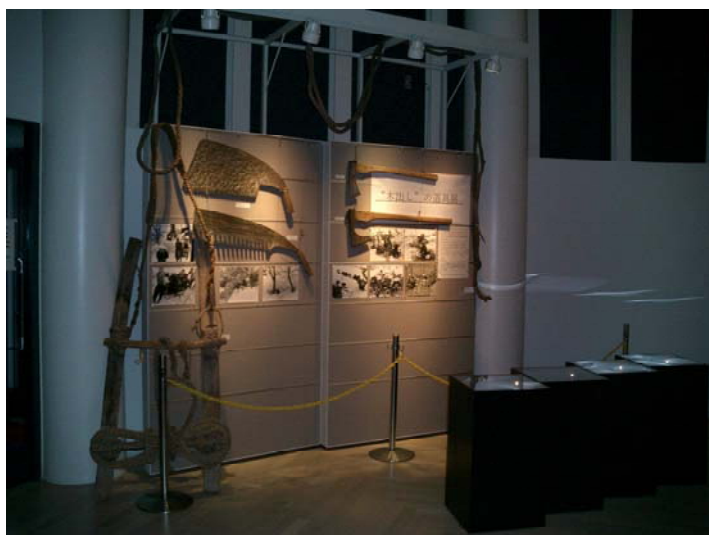


水源地域ビジョン推進のための地域交流拠点として

きてくろ館で「木出し」の道具を展示しています

きてくろ館では、今月から11月末まで、小国町で燃料の主役が木材であった昭和30年頃まで行われていた、春に山林から木材を運び出す「木出し」の道具を展示しております（小国町提供）。

水源地域ビジョン推進のための地域交流拠点として、地元団体などによるきてくろ館の活用方法について試行を行っております。今回は、6月から7月にかけて小国町による「小国町の漁具展」を行いました。今回、第2弾となります。



小国町による木出しの道具の展示状況

きてくろ館は、今年4月18日に一般オープンして以来、9月末までの半年間で約11,000人の利用者があり、横川ダム機能や羽越水害の理解を深めたり小学校の総合学習の場として利用されています。



6～7月に行った小国町による漁具展



地元小学生によるダム見学